

2019年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2020/9/30

| 団体名 | NPO法人 九瑛舎 | 活動タイトル | 天神・博多地域を中心とした包括的連携型こども支援モデル事業 | |
|--|---|--|--|----------|
| 望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤） | | | ■ 活動風景 | |
| ● 地域の望ましい社会状況(ビジョン) | 当団体が実現したいビジョンは、「どのような環境に生まれた子ども、自らの望む未来を見つけ、それを実現できる環境が整った社会」である。具体的には、経済的な困難が教育の困難に繋がることがなく無償で確かな学力を身に付けることが出来、自らの将来望む姿を実現するために必要な文化資本・経済資本・社会資本を十分に得られる環境が整えられた経済力による教育格差がなく、誰もが自己実現が可能な社会づくりを目指します。 | |  <p>11月博多教室での授業風景</p> | |
| ● 団体の社会的役割(ミッション) | 現在福岡市では大学進学を目指す手段として予備校等の有償教育施設へ通うのが通常の方法となっている。しかしリクルートの調査によれば予備校に通う場合年間53万円程必要となり、難関大学を目指す場合は更に特別講座等で30万円程費用負担が増える。本事業では経済的困難を教育の困難へと繋げない事を目的とする。その為に従来の学習支援の枠を突き抜けた無償の「進学塾×キャリア教育」を実現し、文化資本・経済資本・社会関係資本のすべてを網羅した徹底的な教育資本の最大化を行う。その結果、3年後には生徒数100人を超えた難関大学への進学も可能に教育組織となり、いかにのりつきのリソースを生かす事で子どもが大人になるまでの連続的な支援が可能となる。加えて、給付型奨学金の紹介等で経済的困難を突破するためのオプションを周知して行く体制も整える。従来の学習支援の概念を覆すような、福岡市に未来の日本を担う若者が集う梁山泊を創出する。 | | | |
| ● 団体の活動基盤 | NPO法人いるかねつの拠点などのリソースを生かす。家庭教師事業において自主財源を創出する（活動資金：企業協賛、家庭教師事業） | | | |
| ■ 活動報告 | | ■ 1年間の目標に対する達成状況 | | |
| <p>スタディサプリという映像授業を活用した高校生向けの学習支援を、延べ159人に対して実施した。</p> <p>2019年9月末から、博多教室を開講し学習支援を開始。その後、2020年4月から、NPO法人いるかの紹介で、認定NPO法人 箱崎自由学舎ESPERANZAから、箱崎教室をお借りし、毎週水曜日に学習支援を実施した。途中、新型コロナウイルスの影響を受け、対面での授業を行えない事態もあったが、zoomを使用したオンライン上での授業に切り替え、授業を継続した。その際、対面の授業よりも十分なアウトプット学習を提供することができず、生徒の自主性に任せる部分が多くなるという問題点が生じたが、自習を中心とした授業を提供する民間の学習塾である学問ノススメと提携し、オンライン環境下での学習管理のノウハウを提供して頂いた。NPO法人いるかとも、新型コロナウイルスに対応した対面授業のノウハウを共有して頂き、協働して学習支援を実施した。</p> <p>また、学校や自宅の所在地の関係から、教室に来れない生徒に対しては家庭教師型の学習支援を行い、生徒のニーズに合わせた授業を提供した。</p> | | <p>● 学習支援 延べ159人に対して、学習支援を実施した。助成期間終了までに、個人差はあるものの生徒の定期試験での点数は、向上した。しかし、目標としていた模試における偏差値の向上は、あまり見られず、生徒の希望する進路を実現するためにも、授業の質の面で今後の課題が残った。</p> <p>● RE-PRESENTERSを開催 2019年12月には、英進館と協働し、九大の12学部の学生がそれぞれ自分達の学部での学びや研究内容について発表するRE-PRESENTERSを開催した。</p> | | |
| ■ 事業を通じて得られたノウハウ | | ■ 望ましい社会状況を達成するための課題 | | |
| <p>● NPO法人いるかや学問ノススメとの提携・協働を通じて、学習支援教室の開催方法、講師と生徒のコミュニケーションの取り方や自主学習における学習管理の方法を学ぶことができた。今後は、得たノウハウを自団体の授業方法である映像授業と兼ね合わせ、授業の改善を図ってきたい。</p> <p>● NPO法人の運営や助成金の運用に必要な事務処理などの経験を積むことができた。団体にも書類や資料をテンプレートや参考資料として、残すことでノウハウを蓄積した。</p> | | <p>● 東京大学や京都大学など偏差値の高いトップの大学に合格するには、早期から学習習慣を身に付けるなど十分な学習環境を整える必要があり、高校生だけでなく、小学校・中学校から一貫した学習支援のプログラムを構築する必要がある。</p> <p>● 新型コロナウイルスの影響から、ICTを使用した授業や家庭学習が拡大している。だが、それに合わせて十分なネット環境を備えられないご家庭もあり、経済的な格差が拡大する可能性がある。よって授業の中にも、ICTを活用した授業を取り入れるとともに、ご家庭にも十分なICT環境を整え、十分に利用してもらえるようノウハウも提供する必要がある。</p> | | |
| この1年間の活動を通じて | | | 延べ159人の高校生に学習支援を実施すること | を達成しました。 |
| ■ 受益者の具体的な変化（効果測定結果等） | | | | |
| 日々学習をする習慣を身に付けることができ、学習のPDCAサイクルを回せることができています。 | | | | |